

# 平成27年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 7

主要事業名	鹿嶋市の歴史・文化・伝統の普及と発信					作成日	H28.6.27
						担当課名	社会教育課
事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	自治事務(任意)	○	市民サービス	管理経費	
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	建設事業	その他	
					年度から	年度まで	

## 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ			②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ		
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進	基本目標	4	人が輝くかしま
体系項目	(1)	郷土理解教育の推進	基本政策	7	学び楽しむまち
個別施策	②	伝統文化の保護と継承	基本施策	5	文化・芸術の振興
根拠法令等	教育基本法 教育の目標（2条）				

## 2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	鹿嶋市には多くの歴史遺産が残り、鹿島神宮をはじめ、古からの伝統が伝わる地域である。郷土の歴史を市民や観光客を対象に、情報提供を行えるミニ博物館の管理、運営を行い、また、語り部の会による出前講座などで伝統文化に触れる機会を多くつくり、郷土の歴史・文化・伝統を大切にしまちづくりの推進につなげる。
目的（事業の目指すところ）	鹿嶋市の伝統文化に触れる機会として、「鹿嶋子ども歴史探検隊事業」や「鹿嶋の民話」、「市民音頭」の普及活動を実施し、伝承する担い手の後継者育成を行っていく。また、ミニ博物館において、市民や観光客を対象に、郷土の歴史・文化・伝統についての情報提供を行える管理・運営を行っていく。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡巡りや体験講座を通して歴史にふれ、知識を身に付ける</li> <li>・語り部の会による出前講座や語り部養成講座の実施と舞踏連盟による祭り等での普及活動の実施</li> <li>・郷土検定の問題作成、大会への参加</li> <li>・歴史文化、民俗芸能に関する展示内容の充実、移動展示による普及活動の実施</li> </ul>
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	昨年度に引続き、茨城県では、「いばらきっ子郷土検定」事業を開催し、県内中学2年生を対象に実施した。鹿嶋市では予選大会を市内中学校で一斉に行い、代表校として高松中学校が県大会に出場した。また、鹿嶋まつりや桜まつりにおいて市民音頭を披露し、普及活動を行った。

## 3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
			(実績)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)
	鹿嶋の民話語り事業参加者数	人	2,566	2,500	2,600	2,700	2,800
	ミニ博物館ココシカ入館者数	人	8,456	8,500	9,000	10,000	11,000

投入コスト	全体計画	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
		(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
事業経費	鹿嶋の民話語り事業	60	60	60	60	60
	市民音頭普及事業	20	30	30	30	30
	鹿嶋子ども歴史探検隊事業	162	0	0	0	0
	いばらきっ子郷土検定事業	6	6	6	6	6
	ミニ博物館管理運営事業	6,044	6,050	6,050	6,050	6,050
	合計	6,292	6,146	6,146	6,146	6,146
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他(参加者負担金)					
	一般財源	6,292	6,146	6,146	6,146	6,146
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）	1	2	2	2	2
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）	3	3	3	3	3

3 具体的施策評価 (Check) **主要事業名:鹿嶋市の歴史・文化・伝統の普及と発信**

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標 に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善 の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①鹿嶋の民話・市民音頭の普及  【比率: 10%】	①多くの市民に伝承を伝えるため、語り部出前講座の開催を行う ②市民音頭普及のためのイベント参加	①講座の前年度以上の開催を行う(昨年度は60回※内11回は児童クラブ) ②イベントなどの参加回数を前年度以上行う(昨年度は2回)。	①語り部の活動を65回開催 ・出前講座で52回、児童クラブで13回開催 ・語り部養成講座を実施。参加人数7名、6回開催。 ②市民音頭普及のため、桜まつり、鹿嶋まつりのイベントに2回参加	①昨年度より3回多く講座を開き、より多くの市民に伝承を伝えることができた。また語り部養成講座も参加人数が5人増え、人材育成も行った。 ②昨年度と同様2回のイベントに参加し、市民音頭を通して地域交流をすることができた。	①地元の言葉で地元の民話を語り、鹿嶋市の文化を伝えた。また語り部養成講座を開き、方言で語れる後継者の育成も図った。 ②イベントに参加することにより、市民音頭の普及を図った。	個別事業実績評価点: 8.95 [課題] ①語り部養成講座の受講人数をどう増やすか。語り部活動を広く伝えるための活動場所を設置する。 ②イベントのほかに、市民音頭に触れる機会をどう増やすか。
②文化体験事業  【比率: 10%】	鹿嶋子ども歴史探検隊・子ども達が郷土の歴史文化に興味をもって、関心が高まるようように、実際に遺跡を回り、歴史文化に触れて学べる機会を提供する。	小学生4・5・6年生20人を対象に6回の講座を行う。	参加児童13人、6回実施。 ・第1回 開校式・勾玉作り ・第2回 三社めぐり ・第3回 縄土器作り ・第4回 江戸の暮らしを体験しよう(千葉県房総のむら) ・第5回 鹿嶋の文化財博士になろう(文化財めぐり) ・第6回 鹿嶋の伝統料理を作ろう ・閉講式	13人の小学生が参加し、6回にわたって、歴史文化を実際に体験しながら学ぶ機会を提供し、楽しみながら、郷土の歴史に興味を持つことができた。	市内の史跡巡りや本市に関連の深い地域の史跡や博物館を巡り、歴史と文化に対する興味を持ち、楽しく学べるよう努めた。	個別事業実績評価点: 6.5 [課題] 参加人数では伸び悩んでおり、増えていない状況がある。開催時期や体験してみたいと思えるプログラムの検討を企画し、参加者の拡大を図る。
③いばらきっ子検定事業  【比率: 30%】	郷土検定(市大会・県大会)への参加をとおして、子どもたちの郷土の歴史文化や風土への理解関心の向上を図る。	検定問題の作成(50問) ・市大会の実施 ・県大会出場	・郷土検定の問題を50問作成した。 ・市町村大会(鹿嶋市5校参加)を開催し、高松中学校が鹿嶋市の代表校として県大会(45校参加)に出場した。	子どもたちが郷土の歴史文化や風土について理解、関心を深める機会になった。また、高松中学校が県大会へ出場し、敗者復活で準決勝進出を果たした。	子どもたちが鹿嶋の歴史や風土について関心が高まり、学んでいけるような問題作成に努めた。また、高松中学校の県大会の成果を告知し、他の中学校の意欲向上を図った。	個別事業実績評価点: 19.5 [課題] ・問題の修正、関心のもてる新しい問題の作成。 ・今後子どもたちの郷土への興味理解を伸ばし、楽しく学びかつ成績を残すための方策の策定。
④ミニ博物館コソシカの健全運営  【比率: 30%】	鹿嶋市民や、鹿嶋市への観光客を対象に、鹿嶋市の歴史文化や伝統行事について情報提供を行い、鹿嶋市への歴史文化への理解の向上を図るため、特別展の開催や、展示コーナーの充実を行う。	・特別展の開催(年3回) ・常設展示の充実のため、展示コーナーの増設 ・入館者の増加(昨年度は6,752人)	・特別展「合掌作り/端午の節句飾り」、「戦後七十年鹿島から鹿嶋へ」、「鹿嶋への道~江戸時代の鹿島語」、「鹿島の神々豆知識」、「ひな人形展」を開催。 ・8,456人の入館者があった。	・鹿島神宮前町という地の利を活かし、随時鹿嶋市の歴史文化に関する展示をおこない、市内内外へ出し、鹿嶋市の歴史や文化を広められた。	戦後七十年の節目に、鹿嶋市へと変わった歴史に焦点をあて、鹿嶋市発展の歴史を紹介できた。また、HP、新聞、FMかしま、情報誌などのメディアを活用したり、鹿島神宮へチラシを置くなど、展示やイベントの情報を広く発信した。	個別事業実績評価点: 22.65 [課題] ・展示内容の平易化 ・ニュースと時節に応じた展示や企画の開催。 ・企画やイベントを広く周知できるようにし、市内外のお客を呼び込む広報活動の充実を図る。
⑤とどろきセンターの展示活性化  【比率: 20%】	市民や市外の方に対し、博物館の代替施設として、企画展示や講演会等を実施し、鹿嶋市の歴史文化を周知する。	・企画展の開催(年1回) ・歴史講演会の開催(年1回) ・入館者の増加(昨年度は1,515人)	・企画展「鹿嶋への道-江戸時代の鹿島語」開催し、移動パネル展示を行った(大野ふれあいセンター、勤労文化会館)。 ・歴史講演会:小野寺淳「江戸時代の伊勢参りと鹿島語」開催 ・1,571人の入館者があった。	・企画展やイベントを開催し、市内外へ鹿嶋の歴史や文化への関心を高めることができた。 ・移動パネル展示を行うことにより様々な人達に関心をもってもらえた。またとどろきセンターのPR活動にも繋がった。	平成27年は江戸時代の鹿島神宮に関する展示や講演会を行い、古くからの鹿島神宮への関心の高まりを紹介し、郷土の歴史文化の情報提供をすることで、理解を促した。	個別事業実績評価点: 15.1 [課題] ・地域住民に文化財事業への関心を高めてもらう活動。 ・学校教育との連携を図る。 ・とどろきセンターの活動や企画展示を様々な媒体を通して周知徹底を図る。

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	72.7	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	B
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 市外からの転入者などが、鹿嶋市の歴史や伝統文化に触れる機会が減ってきている。郷土に残る歴史や文化、それに係る行事は、地元住民と新しい鹿嶋市民の人間関係を構築する一助になる事業である。そこで、「鹿嶋子ども歴史探検隊事業」や「鹿嶋の民話」、「市民音頭」の普及活動を実施し、郷土の歴史文化へ触れる機会を提供し、地元住民はもとより鹿嶋の新しい住民や子ども達にもその理解と興味を深められた。					
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	鹿嶋市の貴重な歴史文化の周知を通じて、郷土への理解と郷土愛、郷土への誇りを醸成するためこれらの事業は継続していきたい。			
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 郷土の歴史や文化を伝えていくために、まず地元の人に興味を持ってもらい、その上で子どもたちの興味や理解の向上に努め、語り部などの後世へ伝えていける人の育成や広報活動の充実が重要な課題である。					
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 語り部の養成講座を充実させる。大人も子どもも、伝統行事に参加する機会や、歴史文化について学びを増やす。広報活動を充実させ、広く市民や市外の人達にもPRを行い、観光PRの一つとして活用できるように取り組んでいく。					

# 平成27年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.8

主要事業名	英語教育の充実					作成日	H28.6.28
						担当課名	教育指導課
事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	市民サービス	管理経費	
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	建設事業	その他	
					年度から	年度まで	

## 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ			②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ		
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進	基本目標	4	人が輝くかしま
体系項目	(2)	国際理解教育の推進	基本政策	7	学び楽しむまち
個別施策	①	小中学校での英語教育の充実	基本施策	2	学校教育の充実

根拠法令等	—
-------	---

## 2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	現在、中学校の英語科では実践的なコミュニケーション能力を身につける教育が進められている。平成33年度改訂予定の中学校新学習指導要領実施に向け、All Englishでのコミュニケーション能力が求められている。本市で実践している小学校6年間の英語活動及び中学校3年間のコミュニケーション英語の授業は、将来の国際社会に通用する実践的なコミュニケーション能力育成の場となっている。
------------	---

目的（事業の目指すところ）	小学1，2年生は、英語に親しむこと，小学3，4年生は英語に慣れ親しむこと，小学5，6年生は英語で積極的にコミュニケーションを図ることを目的としている。実践的なコミュニケーション能力を図るため，市内全小中学校に英語を第1言語とする英語指導助手を配置している。中学生は，小学生で培ったコミュニケーションに加え，WritingやReadingを生かす総合的な4技能についてバランスのとれた英語力を身に付けることを目標としている。
---------------	---

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校全校，中学校全校への英語指導助手（ALT）の配置を行う。</li> <li>新学習指導要領改訂に向け，指導法についての研修会や研究協議会を定期的実施する。</li> <li>教員の指導力向上のため，全小学校を対象に英語訪問を実施する。さらに英検2級取得など資格取得の推進に努め，教員の英語に関する4技能の向上及び指導力向上につなげる。</li> <li>先進的な取組を行っている機関や学校から資料を収集し，カリキュラム作成に役立てる。</li> </ul>
------------	--

国・県・他自治体の動向，又は市民，その他の意見等	グローバル化の進展に伴い，英語力の向上は，教育界だけでなく経済界など様々な分野に共通する喫緊かつ重要な課題である。平成32年に東京オリンピックが開催されることに伴い，文部科学省では，英語でコミュニケーションがとれる児童生徒の育成を推進する。さらに中学校英語科教員については英検準1級，小学校教員においては，英検2級それぞれの取得が求められつつある。
--------------------------	--

## 3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
			(実績)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)
	小学校英語活動意識調査	%	肯定的回答 86%	肯定的回答 87%	肯定的回答 88%	肯定的回答 88.5%	肯定的回答 89%
	中学校英語能力判定テスト	%	英検3級程度 28%	英検3級程度 30%	英検3級程度 31.5%	英検3級程度 33%	英検3級程度 34%

全体計画		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
		(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
投入コスト	事業経費					
	需用費（英語指導用教材等）	1,973	1,738	1,738	1,738	1,738
	役務費（英語能力判定テスト受験料）	837	1,068	1,068	1,068	1,068
	指導業務委託（小学校）	54,372	55,203	55,500	55,500	55,500
	英語コンサル業務委託（小学校）	10,184	0	0	0	0
	指導助手委託（中学校）	21,889	21,922	22,000	22,000	22,000
	合計	89,255	79,931	80,306	80,306	80,306
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他(参加者負担金)					
	一般財源	89,255	79,931	80,306	80,306	80,306
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）	2	2	2	2	2
	その他職員（再任用（短），嘱託職員等）					



3 具体的施策評価 (Check) **主要事業名:英語教育の充実**

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①小学校全校、中学校全校に英語指導助手(ALT)を配置 【比率: 25%】	ネイティブスピーカーとの会話経験を通して、進んで英語を話したり聞いたりできる基本的コミュニケーション能力を育成するため、市内全小中学校にALTを配置する。	英語を話せるようになりたいと思う児童の割合90%以上。アトリスによる生徒のコミュニケーションに関する関心 意欲 態度平均Bランク以上。	市内全小学校(12校)、市内全中学校(5校)に対して、計画通り全校にALTを配置した。	アトリスにおける生徒のコミュニケーションに対する関心・意欲・態度ランキング市内平均B	小学校外国語活動や中学校英語科において、ALTと直接コミュニケーションをとる場面を多く設定し、英語でコミュニケーションを図る楽しさを体験する場を多く設け児童生徒の意欲を高めるように努めた。	個別事業実績評価点: 22 [課題] 児童生徒のコミュニケーション能力育成のための指導法の改善と工夫
②小学校全学年において、小学校外国語活動の教科化を踏まえた市独自の英語カリキュラムで英語活動を実施 【比率: 25%】	平成32年度から完全実施の新学期指導要領改訂に向けて、ALT主導から学級担任主導型の英語活動の授業を展開する。さらに、平成30年度から小学校英語科の先行実施を行う。	英語を話すが楽しいと思う児童の割合80%以上。児童英検正答率80%以上。	市独自のカリキュラムをもとに、全小中学校が年間指導計画に基づき、完全実施した。	年間指導計画において、全小中学校で指導時数を確保することができた。英語で話すことが楽しいと思う児童の割合78%(-2)、児童英検正答率80.7%(+0.7)	カリキュラムが計画通り遂行されているかどうか、学校訪問などを通して随時確認しながら行うことができた。	個別事業実績評価点: 19 [課題] 平成32年度小学校学習指導要領改訂に伴う小学校英語科開始に向けたカリキュラムの検討
③中学校における英会話を中心とした「コミュニケーション英語」カリキュラムの実施 【比率: 25%】	小学校英語活動で培ったコミュニケーション能力の基礎をさらに育成するため、全中学校において週1時間英会話を中心とした「コミュニケーション英語」を実施する。	中学3年生対象に実施する英語能力判定テストで、英検3級レベル以上が、全体の30%以上。	全中学校において、コミュニケーション英語の年間指導計画を作成し、計画通り完全実施した。	中学3年生において英語能力判定テスト英検3級レベル以上が全体の27.4%(-2.6)	ALTを対象に授業参観ミーティングを毎月定期的に実施し、4技能の向上のポイントについて共通理解を図り指導力の向上につなげた。	個別事業実績評価点: 19 [課題] 生徒のコミュニケーション能力向上に向けた指導法の研究と工夫
④英語活動及びコミュニケーション英語における訪問指導の実施 【比率: 25%】	全小中学校とも、英語活動及びコミュニケーション英語に関する訪問指導を行う。さらにALTミーティングを毎月行い、指導力向上のための研鑽を深める。	全小中学校を対象に、英語活動訪問指導、英語科訪問指導を実施した。昨年度と比較し、児童生徒のコミュニケーション活動の場面が増加した。	全小中学校を対象に年間1回ずつ英語訪問を実施し、各学校の実態に応じた指導助言を行った。	年度当初配付した市学校訪問要項をもとに、授業改善の視点を伝え訪問指導を実施した。課題の改善のための話し合いが深まった。	指導過程の段階(導入・展開・終末)における課題を焦点化し、課題に応じた指導助言を実施した。	個別事業実績評価点: 16 [課題] 訪問指導の内容及び全体会の工夫・改善
【比率: %】			評価:	評価:	評価:	個別事業実績評価点: [課題]

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。			合計点数	76.4	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	B
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 平成32年度に開催予定の東京オリンピックに向けて、同年に小学校での英語科が本格実施の予定である。本市では、平成30年度先行実施を計画し、県内他市町村に先がけて、小学校英語活動、中学校英語コミュニケーションなどにおいて、質の高いカリキュラムを基盤として英語教育を推進している。							
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	グローバル化に伴い、国際化に対応した人材育成が、今後は社会からより一層求められることが考えられるため。					
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 ・平成30年度先行実施予定の英語科に向けた5、6年に関するカリキュラムの作成と工夫改善 ・中学校における4技能を総合的に育成する指導法及び研修の工夫							
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 ・英語科先行実施に向けた先進地区及び先進校視察とカリキュラムの編成 ・コミュニケーション英語の指導内容の工夫および英検受験による資格取得の奨励・推進 ・西帰浦市中学生との交流事業やBritish Hills研修、Australiaの高校生徒の交流事業を通じたコミュニケーション能力の向上							

# 平成27年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 9

主要事業名	中学生国際交流事業					作成日	H28.6.28	
						担当課名	鹿嶋っ子育成課	
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	市民サービス	管理経費		
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	建設事業	その他		
					年度から	年度まで		

## 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進		基本目標	3	活力あるかしま	
体系項目	(2)	国際理解教育の推進		基本政策	5	多様な交流のあるまち	
個別施策	②	異文化理解と交流活動の充実		基本施策	2	多様な交流活動推進	
根拠法令等	—						

## 2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	中学生国際交流事業は平成16年度からスタートして、これまで491名の生徒の海外派遣を実施してきた。これまで、韓国・西帰浦市、中国・塩城市、オーストラリア・カラウンドラ市、カナダ・ニューウエストミンスター市との交流の経過があり、平成27年度は中学2年生19人を韓国・西帰浦市との相互交流を実施した。
目的（事業の目指すところ）	将来の鹿嶋市を担う中学生が、小・中学校で学んできた英語を実践しながら、韓国でホームステイ等を経験することで、日本や鹿嶋の風土、歴史、文化などを再認識しながら、違いがわかり、かつ相手を理解することができる国際人としての感覚を養うことを目的とする。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の周知・PR</li> <li>・施策の完全実施</li> <li>・報告書の作成・配付</li> </ul>
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	県内で韓国の都市と姉妹都市協定を結び、ホームステイを含む中学生相互交流を行っているのは鹿嶋市だけである。この事業ではこれまでホームステイ相互交流を8回実施しており、市民からの評価も高い。

## 3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	27年度 (実績)	28年度 (予定・見込)	29年度 (予定・見込)	30年度 (予定・見込)	31年度 (予定・見込)
	事業参加人数	人	19	20	20	20	20

投入コスト	全体計画		27年度 (決算額：千円)	28年度 (予算額：千円)	29年度 (計画額：千円)	30年度 (計画額：千円)	31年度 (計画額：千円)
	事業経費	旅費		91	71	71	71
負担金（韓国 西帰浦市受入及び派遣）			2,760	2,700	2,700	2,700	2,700
負担金（イングリッシュサマーキャンプ）				1,151	1,151	1,151	1,151
合計			2,851	3,922	3,922	3,922	3,922
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源		2,851	3,922	3,922	3,922	3,922
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		2	2	2	2	2
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）						

3 具体的施策評価 (Check) 主要事業名:中学生国際交流事業

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標 に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善 の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①国際交流事業実行委員会を組織(年3回の会議開催)  【比率: 15%】	市内6中学校から7人、教育委員会から1人の計8人の委員を選出し年3回、会議を実施する。	各中学校から委員を選出し、会議の場を設けることで学校間の調整と参加生徒及び事業への意見を取り入れる。	全出席予定者が集まり、計3回会議を開催できた。(4/14, 5/14, 6/2)	・事業申し込み生徒20人(後に1人辞退)の学校での様子や家庭環境の診査。 ・事業に対する議論及び情報共有をした。	会議以外でも、委員の先生との連絡を密に取り、円滑に事業を実施できるようにした。	個別事業実績評価点: 11 [課題] 事業終了後の総括をする機会を設ける機会がなかった。
②事前研修会の実施(参加生徒)  【比率: 30%】	語学研修を主とした事前研修会の実施。計5回実施。	・事前研修会を原則参加(病気や部活動などやむを得ない場合を除く)とし、研修を通して他言語及び異文化への理解を深める。 ・韓国語で簡単なコミュニケーションが取れるようになる。	5回事前研修会を実施。(8/22, 9/27, 10/25, 11/15, 12/13)	・部活動の試合以外での事前研修会欠席者は0人。 ・全員が自己紹介文を韓国語で作成し、派遣時に韓国語で自己紹介をすることができた。	・韓国語の語学研修では、西帰浦市へ派遣していた職員が講師を担当し、経験を活かせることができた。 ・引率教員が事前研修会への参加することで生徒に学校の授業の延長である意識を持たせることができた。	個別事業実績評価点: 20 [課題] 派遣終了後、本事業を通して感じたことや学んだこと等を参加生徒間で共有できる機会がなかった。
③姉妹都市韓国西帰浦市との相互交流事業の実施  【比率: 40%】	市内に住所がある中学2年生を対象に3泊4日の日程でホームステイを含む、受入と派遣の相互交流を実施。(定員20名)	日本や鹿嶋の風土、歴史、文化などを再認識し、相手を理解することができ国際人としての感覚を身につけること。	韓国国内での感染症拡大に伴い延期となったが、11月28日~12月1日に受入実施。12月19日~22日に派遣実施。参加生徒19名。(辞退者1名)	韓国の生徒と接することで、自分に自信を持つような言動が見られた他、生徒全員が海外に更なる興味を持てた。	生徒の中からリーダーを選出し、発表曲の練習等、生徒達の自主性を重んじた。	個別事業実績評価点: 26 [課題] 特に大きな課題はなし。
④報告書の作成  【比率: 15%】	事業参加生徒及び引率者の感想をまとめた報告書を作成し、3月末日までに関係者及び関係機関に配布する。 40部作製(配布先…参加生徒、実行委員、各中学校、中央図書館、中央公民館等)	記録を残すと共に、事業の周知ツールとし、関係者及び関係機関に事業実施についての理解を深めていただく。	1月末日を事業参加生徒及び引率者の感想を提出期限に設定し、写真などが入ったDVD及び感想をまとめた報告書を作成し、3月30日に配布した。(配付先…参加生徒、実行委員、各中学校、中央図書館、中央公民館等)	参加中学生たちの経験を記録として残すことにより、参加者以外にも事業の意義を共有することができた。	写真を多く取り入れることにより、現地での様子が分かりやすくなった。	個別事業実績評価点: 11 [課題] 事業周知の為、来年度参加対象の各学級分も製作できると尚良いと考える。

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計点数	68.2	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	B
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 韓国国内での感染症の拡大により、参加者1人が辞退及び交流事業の延期があったが日程を変更し、事業を実施することができた。事業申し込み20人。うち事業参加19人。						
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	海外の都市との相互交流を実施している自治体は県内でも少なく、学んできた英語を活かせる貴重な機会である。				
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 事業終了後、学校間での事業に関する情報共有及び生徒間での気づきや経験、学んだことを共有できる機会がなく、機会を設ける必要がある。						
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 事業終了後、実行委員会及び研修会を設定する。						